

〔科目名〕 環境経営論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択必修
〔担当者〕 藤沼 司 FUJINUMA, Tsukasa	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 603研究室	〔授業の方法〕 講 義
〔科目の概要〕 一般的に「環境経営論」と言えば、「自然環境への配慮や対応と関連して持続可能性を志向する経営論」という意味合いで用いられることが多いようです。しかし本学経営学科で設置された<環境経営論>は、企業や行政機関をはじめとするさまざまな協働システムを取り巻く環境として、そうした自然環境を含みつつも、さらには社会環境や人間環境への配慮や対応をも含んでいます。 マネジメントの眼目は、各々の協働システムの共通目的の実現とともに、それを取り巻く自然環境、社会環境、人間環境との調和ある発展を図ることにあります。協働システムはこれら多様な環境によって“生かされつつ生きている”のであり、協働システムの存続と発展は、“生かされている”環境からの要望(呼びかけ)に応えることで達成される諸環境との調和の内にあります。それゆえ協働システムは、潜在的には、多様な環境要因に対して責任(responsibility)を負い、マネジメントには多様な環境要因からの呼びかけに応答する能力(response ability)が要請されています。 しかしこれまでの経営学は、“環境によって生かされている”側面を見落としあるいは軽視し、共通目的の達成を過度に強調するあまり、“生きている”側面に偏重しすぎる傾向にあります。その結果、自然環境からの呼びかけを軽視するところに自然環境破壊が、社会環境からの呼びかけを軽視するところに多種多様な社会的責任問題が、そして人間環境からの呼びかけを軽視するところに過労死や職場における精神疾患の蔓延などの人間性の危機の問題が、顕在化してきていることを無視できません。 本講義では、なぜそうした事態に至ったのかを経営学の史的展開過程の概観を通じて確認し、その上で<環境経営論>として、マネジメントの応答可能性(response-ability)の観点から、諸環境と協働システムの相互関連の過程を、可能な限り全体として理解することを目指します。 可能な限り授業スケジュール通りに進めるよう努力しますが、受講生の状況によっては変更が生じうることを、あらかじめ理解しておいてください。		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経営学は140年あまりの歴史をもちますが、それはちょうど「企業文明」とも称せられる20世紀文明の展開の歴史と重なります。21世紀を迎えた今日、その20世紀文明が示す生活様式の転換を迫られ、それと歩調を合わせあるいは主導してきた経営学にも、21世紀の文明社会の構築に向け、新たな展開が求められている時代です。 これからの時代を切り拓くための基礎となる考え方を学んで、諸環境と協働システムとの相互関連過程という問題視角から、われわれが生きていくために必要となる考え方を養うことが、この講義の狙いです。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 この講義の目標は、協働システムを取り巻く環境がさらに多様化・複雑化する時代にあって、それらの環境にどのように応答してゆくのかという問題の理解にあります。そして、その理解の中から、最終目標として21世紀における協働システムおよびマネジメントのあり方への展望を見出し、自ら考え、判断するために何が必要で、何を問題とすべきかの能力を養うことです。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 既存の「環境経営論」とは異なり、拡張された環境との相互関連を総合的に考慮しようとする<環境経営論>という分野の構想・体系化の試みは緒に就いたばかりであり、担当者自身が努力していますが試行錯誤の連続でもあります。受講生のみなさんには、こうした体系化に向けて、積極的に参加することを期待します。 適宜DVD等の映像資料を活用することで、受講生の理解を促すことも考えています。受講生の理解度に応じて、必ずしもシラバス通りに進まないことがありうることを、あらかじめ理解しておいてください。 マイクの音量に関しては、気をつけます。		
〔教科書〕 藤沼 司『経営学と文明の転換—知識経営論の系譜とその批判的研究—』文眞堂、2015年。		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 石弘之・安田喜憲・湯浅赳男『環境と文明の世界史—人類史20万年の興亡を環境史から学ぶ—(新版)』洋泉社。		

入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。
 大村敬一・湖中真哉『「人新世」時代の文化人類学』NHK出版。
 小笠原英司・藤沼 司編著『原子力発電企業と事業経営—東日本大震災と福島原発事故から学ぶ—』文眞堂。
 経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂。
 経営学史学会監修『経営学史叢書シリーズ』（全14巻）文眞堂。
 経営学史学会監修『経営学史叢書（第Ⅱ期）シリーズ』（全7巻）文眞堂。
 斎藤幸平『人新世の「資本論」』集英社新書。
 斎藤幸平『ゼロからの「資本論」』NHK出版新書。
 白井さゆり『環境とビジネス—世界で進む「環境経営」を知ろう—』岩波新書。
 C.I.バーナード『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社。
 Y.N.ハラリ『サピエンス全史—文明の構造と人類の幸福—（上）（下）』河出書房新社。
 J.D.ヒューズ『環境史入門』岩波書店。
 藤沼 司「有機体の論理とartとしてのmanagement—経営哲学研究への美学的接近に向けて—」『青森公立大学論叢』（論纂第9巻第1・2号）。
 K.ポメラント『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成—』名古屋大学出版会。
 K.ポラニー『新訳 大転換—市場社会の形成と崩壊—』東洋経済新報社。
 村田晴夫『文明と経営』文眞堂。
 見田宗介『現代社会はどこに向かうか—高原の見晴らしを切り開くこと—』岩波新書。
 その他、必要なときに提示。

〔前提科目〕

特になし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断します。

※ 以下の評価項目の詳細については、講義初回で説明の上、みなさんに相談します。

- ・ 期末試験
- ・ 講義内レポート
- ・ 自由レポート
- ・ その他

※ グレードポイントは学生便覧通り。

〔評価の基準及びスケール〕

- ・ 講義内レポートを不定期に実施することがあります。
- ・ なお、配点などの詳細については、授業の初回に提示します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

〈環境経営論〉という新たな分野を構築するために、みなさんの瑞々しい感性に基づいた積極的な意見を歓迎します。共に問いを發し、共に学ぶという姿勢を大切にします。

〔実務経歴〕

該当なし

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):ガイダンス 内 容:「環境」とは何か?</p> <p>教科書・指定図書:教科書 序章および補論Ⅰ・Ⅱ、レジュメ</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):岐路に立つ現代社会の源流—近代への精神的および物質的転換— ① 内 容:「資本主義の精神」の概観</p> <p>教科書・指定図書:教科書 序章および補論Ⅰ・Ⅱ、レジュメ</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):岐路に立つ現代社会の源流—近代への精神的および物質的転換— ② 内 容:産業革命の概観—「エネルギー革命」を中心に—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 序章および補論Ⅰ・Ⅱ、レジュメ</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: 科学的管理の現代的意義 ①—成行管理との対比で—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第1章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: 科学的管理の現代的意義 ②—科学的管理の諸相とその射程—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第1章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「企業文明」としての現代社会</p> <p>内 容: こんにちはの生活様式・行動様式を規定する「企業文明」—大量生産—大量消費—大量廃棄—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 序章およびレジュメ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: フォレット経営思想の現代的意義 ①—「組織社会」における個と全体の統合問題—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第2章およびレジュメ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: フォレット経営思想の現代的意義 ②—「組織社会」におけるプロフェッションの意味—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第2章およびレジュメ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: メイヨー文明論の現代的意義 ①—思考の補助線としてのプラグマティズム—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第3章およびレジュメ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: メイヨー文明論の現代的意義 ②—工業化社会の病理と経営学の主潮流—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第3章およびレジュメ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 20世紀文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容: サイモン理論の現代的意義 —近代経営学の主潮流とひとつの帰結—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第4章およびレジュメ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文明化と人間協働—社会進歩における不変のジレンマ—</p> <p>内 容: <artとしてのマネジメント>の文明論的意味</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第2部およびレジュメ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営学の課題</p> <p>内 容: 協働システムにおける四重経済を中心に</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第2部およびレジュメ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ—諸環境とマネジメントの責任—</p> <p>内 容: 文明の転換期における経営学の役割—〈これまで〉と〈これから〉—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 第2部およびレジュメ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): これまでに学んだことを具体的に適用する</p> <p>内 容: 事例紹介</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	